

何のために仕事をするのか

- ディーセント・ワーク(Decent Work)に就くことをめざそう -

株式会社 開倫塾
代表取締役 社長 林 明夫
(社団法人経済同友会 幹事)

1. 「人は何のために働くのか」を考えよう

- (1) 「ディーセント・ワーク」(Decent Work)という考えがある。
- (2) decent には、「適正な」「ちゃんとした」という意味がある。
では、何が Decent Work(ディーセント・ワーク)なのか。
(ア)生活できるだけの収入が得られる仕事
(イ)自己実現できる仕事
- (3) 「仕事」とは何か。
(ア)世の中に役に立つこと。人様のお役に立つこと。
(イ)世の中や人様のお役に立つとは何か。仕事には、「お客様」がいる。その「お客様」の「問題解決」になること。
(ウ)「お客様」の「問題解決」になってはじめて「仕事」をしたことになる。
「結果」を出さなければ、「仕事」をしたことにはならない。
- (4) 「お客様」の「問題」は、時代の変化とともに急激に変化し続ける。
「急激」に変化し続ける「お客様」の「問題」を「解決」してはじめて「仕事」をしたといえる。
- (5) 「仕事」をしていると必ず「競争相手」が存在する。
「競走相手」もまた、「急激」に変化し続ける「お客様」の「問題」を「解決」しようと創意工夫(そういくふう)をし続ける。
- (6) 「競争相手」との「競争」に負けると、「仕事」を失い、「失業」することになる。
- (7) ただし、いくら競争相手に勝っても、社会のルールに反した方法で仕事をしてはならない。
(ア)刑罰の対象になる行為は認められない。
(イ)法律違反は認められない。
(ウ)道徳に反する行為は認められない。
(エ)社内の規定に反する行為も認められない。
そのためには、刑罰の対象となる行為とは何か、法律とは何か、道徳とは何か、社内で決めた規定とは何かを知らなければならない。「知らない」ことは認められない。

- (8)これに加えて、「企業の社会的責任」(CSR: Corporate Social Responsibility コーポレート・ソーシャル・リスポンシビリティ)が求められる。
- (9)最も大切なことは、「社会的使命」(mission、ミッション)といえる。企業に課せられた「社会的使命」、「企業目的」、「企業倫理」とは何かをいつも考え仕事をし続けること。
- (10)「労働生産性」が低ければ、国内外の競争に勝つことはできない。

2. 中学生時代に学んでほしいこと

- 中学校での勉強の方法、生活の方法は、仕事に役立つ(Decent Workに直結する) -

(1)学習には3段階ある(学習の3段階理論)

(ア)「理解」: うんなるほどと納得すること。よくわかること。腑(ふ)に落ちること。

[A]理解をするために必要なこと。

「欠席」、「遅刻」、「早退」をしないこと。

授業に欠席、遅刻、早退をしては、先生がいくら熱心にていねいに教えてくれても、そこに存在しないのだから「理解」は難しい。

「忘れ物」をしないこと。

教科書や副教材、ノート、筆記用具、その他授業に必要な「道具」を忘れると、授業を受け「理解」することが難しい場合が多い。学習効果が半減する場合が多い。

「私語(おしゃべり)」をしないこと。

「私語(おしゃべり)」は、先生の話に注意して聞いていないのだから、自分の「理解」が減少されると同時に、「話し相手」の「理解」や「周囲の人々」の「理解」も妨げる。授業をする先生の授業計画の進行も大いに妨害する行為。

「居眠り」をしないこと。

眠っていては、「理解」はできない。

身体の状況がよいこと。

体調が悪くては、「理解」はできない。

授業の内容以外のことをやったり、考えたりしないこと。

授業に集中しなければ、「理解」はできない。

[B]仕事をするときも全く同じ。

~ のようなことがあると、仕事にはならない。職場で ~ が度(たび)重なると、仕事を失う原因ともなる。

[C]仕事をする上で、新しいことを学び続ける必要がたえず生じる。

そのときに ~ のようなことがあると、必要なことを学ぶ第一歩としての「理解」が妨げられる。

[D]学校での授業態度は、仕事の上でも非常に役立つ。

特に「早寝、早起き、朝ごはん」つまり「規則正しい生活」や「健康(身体の健康、心の健康)」は大切。

病気がある場合には、病気と闘って、少しでもよくなるように努力しよう。

[E]この「理解」は、「学校」で先生の授業を聞かなくても、職場で誰かから教わらなくても、本やその他のもので自分一人でも可能。ただし、わからないことが出てくることが多いので、「辞書」や「参考書」、「インターネット」などで調べる方法を身に付けておく必要がある。「図書館」の使い方も身に付けておく必要がある。

(イ)「定着」:一度「理解」したことを完全に正確に身につけること。

[A]「定着」にも、3つの段階がある。

一度「うんなるほど」と「理解」したことを、何も見ないでスラスラ口をついて言えるまでにすること。

そのためには、「何で勉強するか」をはっきりさせておくこと。

「教科書」「参考書」「ノート」など、勉強する対象をはっきりさせておくこと。

「ノート」は、「定着」のために使用してはじめて「価値(大切さ)」が出る。

予習をしているときや授業中にノートに様々なことをメモし続けるのは、「定着」つまり「完全」に「正解」に身につけるため。このポイントから、ノートの取り方、ノートのまとめ方も工夫しよう。

スラスラ言えるまでにするのに一番よいのは、「音読」つまり「声に出して読む」こと。何十回も、何百回も、一度「うんなるほど」とよく「理解」した内容を「音読」すると、何も見ずに正確に言えるようになる。

「覚えようとして覚え込むこと」も大事。

何も見ないで正確にスラスラに言えるようになったら、その内容を何も見ずに正確に楷書(かいしょ)で書けるようになるまで、「書き取りの練習」を何十回、何百回も繰り返すこと。

正確に書けなければ、相手に正確に伝わらない。(テストでは得点もできない)

「練習、練習、また練習」は部活動と同じ。

授業や教科書でやったような基本的な問題は、その意味や内容が「うんなるほど」と「理解」できたら、問題を見た瞬間に条件反射で正解が出るまで、何十回、何百回も練習、練習、また練習で「問題練習」を繰り返すこと。

一度やってよく理解できている問題は、「パッ、パッ」と瞬間的に答えが出るまでにしてはじめて、身についた、つまり「定着」したと言える。

[B]「仕事」についても、「仕事」の内容を一度「うんなるほど」と「理解」したら、その内容が「スラスラ口をついて正確に言えること」や「正確に楷書(かいしょ)で書けること」、仕事の上での基本的な計算は「問題を見た瞬間に正解が条件反射で出る」までにしておくことが求められる。

「仕事」の内容について「一度うんなるほど」と「理解」したことを完全、正確に「定着」させるためには、学校での授業内容の「定着」と同様に、「音読」「書き取り」「計算(問題)練習」を何十回、何百回も繰り返すこと、つまり「練習、練習、また練習」が大切。学校での勉強の方法と全く同じ。

[C]仕事を身につけるには、メモを自分自身のノート、マイ・ノートブックに取り続け、そのメモを完全、正確に自分のものとして身につけることが最も効果的。学校での勉強方法(「理解」「定着」)がそのまま役に立つ。

(ウ)「授業」等で一度「うんなるほど」と「理解」し、その内容を完全、正確に「定着」、身に付けた後はその「応用」が大切。

[A]「応用」には2つの内容がある。

「理解」「定着」した内容を活用し、テスト等で十分な得点(合格点)が取れること。

そのためには、過去に出題された問題を5～10年分くらい自分自身の力でゆっくり解き、正確に解けなかった問題を研究すること。どこかで間違えた問題があったら、間違えた原因は何かを考える。

(a)「理解」が足りなければ、教科書や参考書、ノートなどをもう一度勉強し直し、「うんなるほど」と「よくわかる」ようにする。どうしても、自分一人の力ではわかるようにならなければ、先生に質問する。

(b)「定着」が足りないことが原因で間違えたのであれば、「音読」「書き取り」「問題練習」を何十回、何百回も繰り返す。「練習、練習、又練習」で完全、正確に身に付くまでにする。

(c)「応用」力が不足することが原因でできなかったのであれば、少し難しめの問題や、その試験で実際に出題された問題を数多く解く練習をする。

同じ問題が出たら二度と間違えないようにするには、5～6回同じ問題を解くこと。実際の生活で役に立てる力を身につけること。(社会で役立てること)

そのためには、間違えることを恐れず、どんどん使ってみること。

チャレンジする以外にない。

[B]この「応用」の勉強方法こそ、「仕事」に最も役立つ。

仕事の上では、放っておけば同じような問題が毎日のように発生することもある。問題が発生し続けることを放置し続ければ、よい仕事はできない。お客様の問題解決にならない。問題の発生する原因を発見し、どんどん解決し続ける必要がある。

なぜ「仕事」がうまくできないのか、その原因を考えて、対策を練り上げ、うまく「仕事」ができるようにしてはじめて、よい「結果」を出せる。

(エ)このように、中学での勉強の方法や生活の方法は、仕事に役立つ(Decent Work ディーセント・ワーク)に直結する。

3. 社会人になるに当たって考えておかなければならないこと

(1)アジアのよさ、日本のよさ、東京のよさ、江戸川区のよさ、瑞江第三中学校のよさ、友だちのよさ、家族のよさ、そして自分自身のよさとは何かを考えよう。

「よさ」はそのまま素直に認めよう。

「よさ」はどんどん伸ばすように努めよう。

(2)問題点は問題点として解決するように努めよう。

(3)本をたくさん読んで考えよう。

新聞を1日1時間読んで考えよう。(英字新聞も毎日読もう)

(4)「英語」と「コンピューター」は、できれば最大限身につけよう。

これに加えて、「専門分野」(これはという得意分野)を持とう。

- (5)世の中には、様々な文化、伝統、ものごとの考え方(価値観)があることを知ろう。
- (6)健康第一(身体の健康、心の健康)。「いつまでも若々しく生きる」(中村天風先生)
- (7)勉強は一生続けよう。「一生勉強 一生青春」(相田みつを先生)
「教育ある人」とは「勉強し続ける人」のこと。
- (8)「一所懸命(一つの所で命を懸けるくらいの熱心さで)」ものごとに取り組もう
(足利高校マラソン大会)
- (9)「ブルドック魂」(食いついたら離すな)。(中学校のクラス担任 岡田忠治先生)
- (10)「自他共栄」(自分も他人も共に栄えよう)。(中学校の柔道部長 椎名弘先生)
- (11)「会った人は皆友達」(一期一会、出会いを大切にしよう)。(京都 一燈園 石川洋先生)
- (12)「持続する志」(志は高く持ち、一生持ち続けよう)。(小説家 大江健三郎先生)
「躰(しつけ)」を身につけよう。
美しい立居振舞い(たちいふるまい)
敬語表現を含む言葉遣(ことばづかい)

4. おわりに

- 自己紹介 -

- ・ マニー株式会社 社外取締役
- ・ 栃木県社会教育委員(栃木県教育委員会)
- ・ 宇都宮市学校制度改革懇談会委員(宇都宮市教育委員会)
- ・ 東日本高等学院 評議員
- ・ 特別養護老人ホーム 清明苑 理事
- ・ 宇都宮大学大学院情報工学研究科 非常勤講師
- ・ ラジオ栃木放送(CRT)「開倫塾の時間」毎週土曜日 9:15 ~ 9:25am 担当(18年目)
- ・ 慶應義塾大学法学部法律学科卒業
- ・ 世界銀行研究所・ハーバード大学国際開発研究所・シンガポール大学行政大学院の民営化の短期集中コース修了

皆様の成功の実現をお祈り申し上げます。御清聴を感謝いたします。
以上